

ハウレンソウ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	ベト病	灰色病	白斑病	株腐病	苗立枯病	立枯病	萎凋病	根腐病
アグロケア水	生物農薬	BM2		1	-		◎	◎					
コサイド3000DF	無機	M1		-	-	◎		◎					
バシタック水75	アミド	7		*b	1					®			
モンカット水50	アミド	7		*a	1					®			
レーバスFL	アミド	40		3	2	◎							
ベンレート水	ベンゾイミダゾール	1		21	2							◎	
ヨネボン水	有機銅	M1		14	4	◎							
アリエッティ水	有機リン	P7		1	2	◎		◎					
リゾレックス水	有機リン	14		*c	1					®			
リゾレックス粉	有機リン	14		*d	1				◎				
タチガレン液	他	32		*c	1						◎		
タチガレン粉	他	32		*e	1						◎		◎
ピシロックFL	他	U17		1	2	◎							
フェスティバル水	他	40		1	3	◎							
ライメイFL	他	21		7	2	◎							
ランマンFL	他	21		3	3	◎							
ユニフォーム粒	QoI・アミド	11・4		*d	1	◎		◎					

*a:播種直後 *b:播種時～子葉展開時 *c:播種時 *d:播種前

*e:播種3日前～直前

®:リゾクトニア菌による病害

ホウレンソウ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	ア ブ ラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ミ ナ ミ キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	ヒ メ ク ロ ユ ス リ カ エ	シ ロ オ ビ ノ メ イ ガ	ヨ ト ウ ム	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ネ キ リ ム シ 類	ケ ナ ガ コ ナ ダ ニ	ハ ク サ イ ダ ニ	ハ ダ ニ	ネ コ ブ セ ン チ ュ ウ
スピノエース顆水	ｽﾍﾞﾉｼﾝ	5	1	2		◎	○	ア		◎								
ククメリス	天敵生物	-		*a	-										◎			
カスケード乳	I GR	15	3	3				ハ		◎		◎		ホ				
ノーモルト乳	I GR	15	7	2								◎						
マトリックFL	I GR	18	7	3								◎						
ラグビーMC粒	殺線虫	1B	*f	1														◎
ネマキック粒	殺線虫	1B	*f	1														◎
ダニトロンFL	殺ダニ	21A	21	1														◎
モベントFL	殺ダニ	23	14	3	◎										ホ			
ブレバソンFL5	ｼﾞｱﾓﾄﾞ	28	1	3						◎		◎						
ベリマークSC	ｼﾞｱﾓﾄﾞ	28	7	1						◎		◎			ホ			
ディアナSC	ｽﾍﾞﾉｼﾝ	5	1	2				◎		◎		◎			ホ			
アクタラ顆溶	ﾓﾅﾁﾉｲﾄﾞ	4A	3	2	◎													
アクタラ粒5	ﾓﾅﾁﾉｲﾄﾞ	4A	*c	1	◎													
アドマイヤーFL	ﾓﾅﾁﾉｲﾄﾞ	4A	劇	1	2	◎	◎	○										
アドマイヤー1粒	ﾓﾅﾁﾉｲﾄﾞ	4A	*c	1	◎													
アルバリン顆溶	ﾓﾅﾁﾉｲﾄﾞ	4A		3	2	◎												
スタークル顆溶	ﾓﾅﾁﾉｲﾄﾞ	4A		3	2	◎												
アルバリン粒	ﾓﾅﾁﾉｲﾄﾞ	4A	*c	1	◎													
スタークル粒	ﾓﾅﾁﾉｲﾄﾞ	4A		1	◎													
モスピラン顆溶	ﾓﾅﾁﾉｲﾄﾞ	4A	劇	14	2	◎												
パダンSG溶	ﾍﾞｲｽﾄｷﾞﾝ	14	劇	7	2			◎	ア		◎							
パダン粒4	ﾍﾞｲｽﾄｷﾞﾝ	14	劇	*b	2			◎										
リーフガード顆水	ﾍﾞｲｽﾄｷﾞﾝ	14	劇	7	2	◎	◎	○	ア						ホ			
アグロスリン乳	ﾍﾞｲｽﾄｷﾞﾝ	3A	劇	21	5	◎		◎			◎							
アデオン乳	ﾍﾞｲｽﾄｷﾞﾝ	3A		14	2	◎												◎
ガードバイトA粒	ﾍﾞｲｽﾄｷﾞﾝ	3A	*d	2										◎	ホ			
フォース粒	ﾍﾞｲｽﾄｷﾞﾝ	3A	劇	*f	1									◎	ホ			
アニキ乳	ﾏｸﾛﾗｲﾄﾞ	6	1	3									◎					
アフーム乳	ﾏｸﾛﾗｲﾄﾞ	6	3	2									◎		ホ			
カルホス微粒F	有機リン	1B	劇	*c	1				◎									
スミチオン乳	有機リン	1B		21	2	◎									ホ			
ダイアジノン乳40	有機リン	1B	劇	21	2	◎												
ダイアジノン粒5	有機リン	1B	*c	*f	1				◎		◎							
マラソン乳	有機リン	1B		14	4	◎												
アクセルFL	他	22B		1	3					◎		◎						
ウララDF	他	29		1	2	◎												
コテツFL	他	13	劇	*g	1										ホ			
コテツバイト粒	他	13		*h	1										ホ			
トランスフォームFL	他	4C		14	2	◎												
フラインセーブFL	他	34	劇	14	2		◎	○										
ブレオFL	他	UN		1	2				◎				◎					

*a:発生初期(施設) *b:播種時及び発芽揃時 *c:播種時 *d:生育初期
 *f:播種前 *g:2葉期まで(但し収穫14日前まで) *h:播種時～2葉期まで(但し収穫14日前まで)
 ア:アシクロハモグリバエ ハ:アシクロハモグリバエ及びマメハモグリバエ
 ホ:ホウレンソウケナガコナダニ

ホウレンソウ

ホウレンソウ(野菜類の登録農薬も使用できる)

主要病害虫発生消長	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病害	春まき			—	—	—						
	立枯性病害 べと病			—	—	—	—	—				
	夏まき					—	—	—	—			
	立枯性病害 べと病					—	—	—	—	—	—	
	秋まき										—	—
	立枯性病害 べと病			—	—	—	—	—	—	—	—	—
虫害	シロオビノメイガ			—	—	—	—	—	—	—	—	—
	アブラムシ			—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ヨトウムシ			—	—	—	—	—	—	—	—	—

作型 — ; 栽培期 — ; 収穫期
 病害虫発生消長 — ; 発生期 — ; 発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病	播種前	1. 抵抗性品種を利用する。 2. 排水不良畑での栽培は避ける。 3. 次の薬剤を施用する。 ユニフォーム粒剤 9 kg/10a	春と秋の2回, 特に秋期曇雨天が続くと10月中旬から下旬にかけて多発しやすい。 ●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。
	生育期	1. 肥培管理に注意し、軟弱にならないようにする。 2. 過密栽培を避け、排水を良好にする。 3. 雨よけ栽培を行う。 4. 発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 アリエッティ水和剤 1500倍 ランマンフロアブル● 2000倍	
株腐病	播種前	・多発畑では連作をさけるか、土壤消毒を行う(土壤消毒の項参照)。	本病はリゾクトニア菌による。
	播種前および播種時	1. 夏まき、早まきの場合、播種期をできるだけ遅くする。 2. 次の薬剤を播種前に土壤混和する。 リゾレックス粉剤 20~40kg/10a	

ホウレンソウ(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
苗立枯病	播種前	・ 土壌消毒を行う(土壌消毒の項参照)。	本病はリゾクトニア菌、ピシウム菌による。 # リゾクトニア菌のみに有効である。
	播種時	1. 過密な播種を避け、うね内の過湿に注意する。 2. 多発畑では、次の薬剤を播種時に30/m ² 土壌灌注する。 リゾレックス水和剤# 500倍	
立枯病	播種前	1. 多発畑では連作をさけるか、土壌消毒を行う(土壌消毒の項参照)。 2. 次の薬剤を播種前に土壌混和する。 タチガレン粉剤 40kg/10a	
根腐病	播種前	1. 多発畑では連作をさけるか、土壌消毒を行う(土壌消毒の項参照)。 2. 次の薬剤を播種前に土壌混和する。 タチガレン粉剤 40kg/10a	低温で雨の多い年に発生する。本病はアファノミセス菌による。
モザイク病・えそ萎縮病	生育期	1. 寒冷紗による被覆栽培を行う。 2. アブラムシの防除をする(アブラムシの項参照)。	病原ウイルスはアブラムシ類により伝搬される。 症状が冬季～早春に発生するケナガコナダニの加害と類似するので注意する。
アブラムシ類	生育期	1. 寒冷紗などによる被覆栽培や光反射マルチシート等で有翅虫の着生を防止する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。特に10～11月はウイルス病予防に散布する。 アディオン乳剤 3000倍 アドマイヤーフロアブル 4000倍 マラソン乳剤 2000～3000倍	アブラムシは汁液を吸汁して加害するだけでなく、ウイルス病を媒介するので、秋の多発期には防除を徹底する。
ミナミキイロアザミウマ	生育期	・ 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン乳剤 1000倍 スピノエース顆粒水和剤# 5000倍 パダンSG水溶剤 1500倍	# アザミウマ類での登録
タネバエ	播種時	・ 次の薬剤を作条土壌混和又は土壌表面散布する。 ダイアジノン粒剤5 6kg/10a	

ホウレンソウ(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
シロオビノメイガ	生育期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 カスケード乳剤 4000倍 プレバソンフロアブル ⁵ 2000倍	秋期の被害が大きい。
ヨトウムシ	生育期	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団でいるので、見つけ次第葉ごと処分する。 2. 幼虫の若齢期に次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン乳剤 2000倍 ノーモルト乳剤 2000倍	5～6月と9～10月の2回発生する。
ハスモンヨトウ	生育期	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団でいるので、見つけ次第葉ごと処分する。 2. 幼虫の若齢期に次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤 2000倍 エコマスターBT* 1000倍 カスケード乳剤 4000倍	盛夏期以降発生が多くなる。 *野菜類での登録
ネキリムシ類	生育初期	・次の薬剤を株元に施用する。 ガードベイトA(粒) 3kg/10a	
ホウレンソウ ウケナゴ ナダニ	播種時 ～2葉期	・次の薬剤を土壌全面に散布する。 コテツベイト(粒) 3～6kg/10a	未熟の有機物を使用しない。
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤 2000倍 カスケード乳剤 4000倍	
ハダニ類	生育期	・次の薬剤を散布する。 ダニトロンフロアブル 2000倍	
ネコブセンチュウ	播種前	1. 作付予定地は土壌消毒をする(土壌消毒の項参照)。 2. 次の薬剤を播種前に全面散布して土壌混和する。 ラグビーMC粒剤 20kg/10a	幼苗期に寄生が多いと、生育が著しくおとろえ、枯れる場合もある。
その他の病害虫		アカザモグリハナバエ、ヤサイゾウムシ	